

## 20周年おめでとう

法政大学 中嶋龍三

核データ・ニュースが旧名“JNDCニュース”として創刊されたのが、今からちょうど20年前である。シグマ委員会が発足してから慌ただしい3年間を経過して、委員会体制もどうにか確立され、また国際的協力のスタート・ラインに立った。まさにそういう時点でJNDCニュースが産声をあげたのである。あれ以来、途中でやや中だるみの時期もあったようだが、核データ評価作業に追われながらもとに角20年間刊行し続けてきたことは、顕著ではないがむしろ地道な努力の成果であって、誠に喜ばしいことといわなければなるまい。

さて、この核データ・ニュース発刊20周年に際して“何か”書け、という編集委員会の依頼、— 依頼というよりは命令といった方が当たっている — なのだが、これは私にとってきわめて難問である。たしかに、JNDCニュース創刊からしばらくの間編集のお手伝いをしたことはある。しかしつい最近、浅見編集委員長に駆り出されて昨年度までまた核データ・ニュース編集のお手伝いをしていたので、核データ・ニュースを自画自讃するわけにもいかないし、かといってあまりケチをつけることもできない。何を書こうかといろいろ考えてみたが、不思議に全然気のりしないうちに〆切りの期日がどんどん迫ってくる。まあまあそのうちにと思って別の仕事にとりかかろうとしたら、編集委員諸公のにが虫を噛みつぶしたような顔がちらつきはじめてきた。何度仕切り直してみても駄目なので、呼吸が合わないまま立上ることにする。

そもそも核データ・ニュース刊行は有意義なのだろうか？たしかに初期の頃は、入手した資料の紹介や情報の伝達という点でかなり有用であったと思う。それに加えて、いろいろな立場の人たちが巻頭言で個人的な意見を開陳していたが、これは、核データ活動の意義や悩みを読者に知ってもらおうという意味でも、また逆に、核データ分野やニュース編集方針に対する読者の期待や希望を述べてもらったという点で、結構有意義であった。

しかし、あの当時からくらべて世の中の高度情報化が大いに進んだ昨今では、号外でも出さない限り年3回刊行の核データ・ニュースによる情報伝達の意義はうすれている。また、巻頭言はあまりにもかた過ぎるという理由でいつの間にか消滅してしまったようである。“巻頭言”という言葉が消滅したことに異存はないのだが、しかしそれと同時に、読者が気軽にせいぜい刷上がり1頁ぐらいの程度で— 意見を述べることのできる場も消滅してしまった。しからは核データ・ニュースは有意義ではないのかということ、私はそう思わない。最近の編集委員会では、話題・解説、シグマ委員会だより、テクニカル・コメント、といった胸がわくわくするような欄を設けて核データ・ニュースの充実をはかっている。私はこのような核データ・ニュースに大いに期待したいのだが、欲をいえばもう一つ、読者たちが気楽に雑談できる場があっ

てもよいのではないかと思っている。

アメリカ物理学会誌 Physics Today には letters という欄があって、テクニカルであるなしにかかわらず、種々雑多なコメントを掲載している。ちょうど、新聞の投書欄と同じようなものである。大部分が、Physics Todayに載った記事や letters に投稿された話題に対する賛成論、反対意見、あるいは追加コメントであるが、物理学者の逸話（また聞きの場合も多い）や簡単な質問などもある。ごく最近の手紙であるが、ある記事に反論して「驚き、桃の木、山椒の木、— 最近はこのこといわないかな？ — 誠に言語道断だ。馬鹿馬鹿しくて反論もしたくない。しかし黙っていると同感だと思われかねないから一言物申す。」という書き出しで長々と論じているのがあったがこれなどは例外で、一般に気軽に手紙を書いて意見や情報の交換を行っている、という感じがする。読む方としても、ちょっと面白そうなのに目を通して自分の知識の糧としてもよし、またたとえすぐ忘れてしまっても損をしたという気にもならない。

私は、今していることが思うように捗らないとき — ちょうどこの文を書き始めようと決心したときと同じような —、手元に雑誌があればときどきこの欄に目を通すことがある。読む量が少ないせいもあって、不正確ながらも記憶に残っているのは2編か3編である。その中の一つはどこかの医学研究所（だったと思う）の人のもので、Be に対する  $\alpha$  粒子散乱実験で高エネルギー  $\gamma$  線が出るという 1930年の Bothe-Becker の結論は正しい、というコメントである。これに対してどこかのボス（多部 Yale の Bromley だったかと思う）が原論文をチェックして、たしかにその通りだというコメントをつけ加えていた。これは、私にとって新しい知識となった。

何も Physics Today の真似をする必要はないが、核データ・ニュースにも通信欄みたいなものを設けて、提案、ぼやき、また聞き、随想、書評、記事批判、質問等々を短かくても長くても載せる誌上雑談の場としたらどうだろう。このような放談広場の賑やかさは、あるいは核データ・ニュースの意義に対する一つのバロメーターになるかも知れない。もしもこのような場が与えられたとしたら、私は早速次の二つの質問をして教えを乞いたいと思う。

1. シグマ委員会の“シグマ”は断面積の記号  $\sigma$  または  $\Sigma$  に由来するが、反応断面積を何故  $\sigma$  で表わすのだろうか？若き日の Oppenheimer がある論文の中で、断面積に対して  $\sigma$  を使ったのが最初であって、それ以来みんなが何となくこの記号を使うようになったのだという説もあるが、それは本当だろうか？
2. 核反応エネルギーや崩壊エネルギーを Q 値というが、この“Q”はどこから由来するのだろうか？これはずっと以前にある学生に質問され、調べておくことを約束したがついにわからず窮地に立った（大袈裟かな？）記憶がある。